

令和7年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第7号（10月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年9月25日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並が多い	ほぼ平年並

○10月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		9月の発生量 (平年比)	9月からの 増減	10月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチユウ類（カン シャシンクイハマキ・ イネヨトウ）（夏植 え）	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（タ） カン カキ ン	① かいよう病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マン ゴー	① チャノキイロアザミウ マ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
小 ギク （年 末 出 荷 用）	① 黒斑・褐斑病	並	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
	② アザミウマ類	並	↗	やや多	例年の発生量の推移（↗）
	③ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ チョウ目幼虫	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予報の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	バッタ類	伊平屋島、伊江島で発生が多くなっている。防除薬剤は浸透移行性や残効性の高い剤を用いる。
（タカナンカニン）	サビダニ類	一部ほ場でサビダニ類による被害果が見られた。肉眼では発見しにくく果実に被害が見られてからの防除では手遅れになるため、予防に重点を置いて防除する。
	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良や肥大阻害を引き起こすことで外観が損なわれるため、商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でナカジロフサヤガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り不要な新梢を除去するとともに早期発見・防除に努める。

令和7年度 宮古群島 病害虫発生予報 第7号（10月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年9月25日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並が多い	ほぼ平年並

○10月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			9月の発生量 （平年比）	9月からの 増減	10月の発生量 （平年比）	
さとうきび	①	メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（夏植え）	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
マンゴー	①	チャノキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	②	マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	一部新植夏植えほ場で確認された。発病株からの孢子飛散を防ぐためにビニール等で袋かけして抜き取り、処分する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

令和7年度 八重山群島 病害虫発生予報 第7号（10月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年9月25日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並が多い	ほぼ平年並

○10月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			9月の発生量 （平年比）	9月からの 増減	10月の発生量 （平年比）	
水 稲 （ 2 期 ）	①	葉いもち病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
	②	斑点米カメムシ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③	コブノメイガ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④	スクミリンゴガイ	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）
さ と う き び	①	メイチュウ類（カン シャシクイハマキ・ イネヨトウ）（夏植 え）	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
マ ン ゴ ー	①	チャノキイロアザミウ マ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	マンゴーハフクレタマ バエ	多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
	③	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
オ ク ラ	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③	フタテンミドリヒメヨ コバイ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	④	チョウ目幼虫	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予報の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でタイワンキドクガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生が見られた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。
オクラ	葉すす病	複数のほ場で発生が確認された。高温多湿条件で増加し、多発すると葉裏全面が暗灰色すす状のかびで覆われる。不要な下葉を除去するとともに、発生確認時及び台風・大雨の前後には登録農薬を散布する。
	クロテンコナカイガラムシ	複数のほ場で発生が確認された。生長点への寄生により芯止まりを起こすほか、吸汁による葉の萎縮、排泄物による果実の汚れやすす病を引き起こす。発生を確認したら速やかに寄生部位を除去し、ほ場外に持ち出し処分する。寄主植物が多いので、雑草防除に努めるとともに、周辺の作物や樹木等での発生に留意する。
	ハダニ類	複数のほ場で発生が確認された。葉にかすり状の食害や黄変をもたらす、多発すると光合成を阻害して生育が抑制される。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。切り戻し後萌芽した株は、草丈が低く葉が柔らかいため加害を受けやすいので、発見次第捕殺に努める。